

令和 5 年度（令和 4 年度対象）
教育委員会点検・評価報告書

令和 6 年 2 月
岡崎市教育委員会

目次

1	点検・評価制度の概要	1
(1)	点検・評価の趣旨	1
(2)	点検・評価の方法	1
(3)	点検・評価を行う者	1
2	事務事業評価の概要	2
(1)	事務事業評価の目的	2
(2)	事務事業評価の対象業務	2
3	業務活動の評価	3
(1)	評価対象業務活動の評価項目	3
(2)	評価対象業務活動の評価結果	4
(3)	評価結果の分布	6
4	外部評価結果	6

1 点検・評価制度の概要

(1) 点検・評価の趣旨

平成19年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育事務の点検及び評価等に関する規定が追加されました。

これにより、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

また、点検及び評価を行うに当たっては、その客観性を確保するため、学識経験者の知見の活用を図ることとされました。

点検・評価の取組みを通じて、さらに効果的な教育行政の推進を図るとともに、その結果を公表し、市民の皆様への説明責任を果たします。

【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の方法

評価の実施方法については、岡崎市全体で取り組んでいる事務事業評価の方法を活用し、各事務事業について担当部署が業務活動評価表を作成し、その業務活動の概要、指標及びコストについて公表することとしています。昨年度に評価内容が一新し、全業務活動の評価結果を数値化する等、具体的な改善・改革につながる発見がしやすくなる形となり今年度もその手法を採用しています。

(3) 点検・評価を行う者

教育委員会では、事務事業評価を活用した自己点検・評価のほか、教育事務の点検・評価の客観性を高め、また学識経験者の知見の活用を図るため、外部評価

として愛知教育大学名誉教授・特別教授で元岡崎市教育委員の土屋武志氏に、抽出した教育事務に対し、担当課面談方式による点検・評価を実施していただきました。

2 事務事業評価の概要

(1) 事務事業評価の目的

ア 透明性の高い行政運営

事業の目的を明確にし、投入した予算や人員でどれだけの成果があったかを市民にわかりやすく説明するために行います。

イ 経営資源の有効活用

限られた経営資源（ヒト、モノ、カネ）を最適配分し、その配分された経営資源が最も効率よく行政活動に結びつくようにするために行います。

ウ 事業の評価と改善への取組

事業の計画を立て実施するという行政運営の中で、事業の実施結果の内容や実施方法について分析、評価し、次の計画に改善を活かしていくために行います。

(2) 事務事業評価の対象業務

事業費の有無に関わらず、人件費のみで行われている業務も含めて、市が実施している全ての活動を業務活動の単位としています。

さらに、業務実施するかどうかについて市に裁量があるかどうか、サービスの直接の受益者は誰か、また、業務の内容により下記のとおり分類します。

(ア) 一般型…市の裁量で実施する業務。(イ)～(エ)以外

(イ) 経常型…市の裁量に関わらず法令や条例により実施が義務付けられた業務、直接的な住民サービスの提供を伴わない、庶務、人事、財務など内部的業務

(ウ) 維持管理型…公の施設の維持管理・整備業務

(エ) 進捗管理型…道路建設などの公共事業や施設建設、大規模改修などのハード事業、複数年かかる計画策定や調査など

事務事業評価は、すべての業務活動のうち、評価に適さない（イ）の経常型と（エ）の進捗管理型を除いたものについて評価対象としています。教育委員会

事務局では86の業務活動があり、一般型、維持管理型の51の業務活動を評価対象としています。

3 業務活動の評価

(1) 評価対象業務活動の評価項目

下表の17の評価項目について評価対象業務活動ごとに4段階の評価を行います。
評価の視点において平均点を算出し、各業務活動の評価とします。

評価の視点	業務活動の評価項目	評価点			
改善余地	市職員ならではのノウハウが必要である。	1	2	3	4
	民間事業者、市民団体等と連携して行う余地はない。	1	2	3	4
	単純な事務作業や入力作業は少ない。	1	2	3	4
	紙の書類の取扱いが少ない。	1	2	3	4
	庁内外からの電話対応や窓口対応は少ない。	1	2	3	4
	勤務時間内に処理できている。(時間外勤務が少ない。)	1	2	3	4
有効性・効率性	コストの削減が図られている。	1	2	3	4
	業務の効果は不特定又は多数の市民にもたらされる。	1	2	3	4
	業務内容は市民の権利・生命・財産の保護に直結している。	1	2	3	4
	他業務に優先して行う必要がある。	1	2	3	4
	民間企業等では同様のサービスが提供されていない。	1	2	3	4
	この業務を廃止した場合に市民生活やまちづくりに大きな影響がある。	1	2	3	4
リスク管理	業務手順が確立されている。	1	2	3	4
	チェック・確認体制が整っており、かつ、機能している。	1	2	3	4
	業務の進捗状況が管理されている。期限内に業務が完了できている。	1	2	3	4
	部署内で必要な情報が共有されている。	1	2	3	4
	長年解決されていない(あるいは着手されていない)問題はない。	1	2	3	4

4・該当 3・やや該当 2・あまり該当しない 1・非該当

(2) 評価対象業務活動の評価結果

担当課	基礎事業名	業務活動名	改善余地	有効性・効率性	リスク管理
教育政策課	教育の機会均等の確保	奨学金関連	2.3	3.0	3.2
	新しい時代の教育に対応した学校教育環境の整備	タブレット型情報端末導入	3.7	3.5	3.6
	新しい時代の教育に対応した学校教育環境の整備	情報教育推進	2.8	3.3	3.4
	新しい時代の教育に対応した学校教育環境の整備	30人学級実施検討会議開催	3.2	2.8	2.8
	教育における経済的負担の軽減	新入学児童就学支援業務	2.3	2.5	2.2
	教育における経済的負担の軽減	新入学生徒就学支援	2.3	2.5	2.2
	人・もの・ことを生かした教育の推進	ジュニア版家康公検定実施業務	2.3	2.5	2.2
学校給食センター	心身の健全な発達に資する学校給食の実施	岡崎市学校給食協会補助	3.2	3.3	4.0
施設課	安全な学校施設の維持管理の推進	小学校附帯施設改修	3.0	3.5	3.0
	安全な学校施設の維持管理の推進	中学校附帯施設改修	3.0	3.5	3.0
学校指導課	心身の発達に応じた普通教育の実施	児童生徒・教師用指導書購入	2.7	4.0	4.0
	小学校遠距離通学対策	小学校通学バス運行	2.2	2.5	2.6
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	科学技術・理科教育振興	2.2	2.8	3.0
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	各種小中学校大会派遣補助	2.7	3.5	3.0
	教職員の働き方改革の推進	指導研修	2.7	3.7	4.0
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	へき地学びの絆づくり推進	3.2	2.2	3.6
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	体育行事活動等推進	2.2	3.2	3.4
	人・もの・ことを生かした教育の推進	特色ある学校づくり推進	2.5	2.5	3.0
	子どもの特性を認め伸ばす教育の推進	帰国・外国人児童生徒教育支援	2.5	2.7	3.0
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	学校行事実施	3.0	2.7	3.2
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	教育研究委託	2.7	2.8	3.0
	新しい時代の教育に対応した学校教育環境の整備	学校情報メール配信システム運用	3.2	2.7	3.4
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	国際理解教育・英語教育振興	2.8	3.5	3.8
	未来を生きる資質・能力を育成する教育の推進	教育課程研究	3.2	2.8	3.0

	新しい時代の教育に対応した学校教育環境の整備	水泳授業支援	2.2	3.3	3.0
総合学習センター	教育の振興・生涯学習の場の提供	総合学習センター管理運営	3.0	3.2	2.8
少年自然の家	心身ともに健全な少年の育成	少年自然の家管理運営	3.0	2.3	3.4
教育相談センター	子どもの特性を認め伸ばす教育の推進	教育相談センター管理運営	2.0	2.8	2.6
	子どもの特性を認め伸ばす教育の推進	児童生徒健全育成推進	2.0	2.7	2.6
	子どもの特性を認め伸ばす教育の推進	特別支援教育推進活動	2.2	2.5	3.2
社会教育課	家庭・地域・学校の連携推進	P T A連絡協議会運営費補助	3.0	3.2	4.0
	青少年の健全育成推進	20歳のつどい開催	2.8	3.0	4.0
	青少年の健全育成推進	少年愛護センター管理運営	3.7	3.3	4.0
	文化財の保存管理	埋蔵文化財調査・整理・報告	2.8	4.0	4.0
	文化財の保存管理	文化財施設等管理	2.7	3.2	4.0
	文化財の保存管理	文化財保護	2.5	3.3	4.0
	家庭・地域・学校の連携推進	家庭教育推進	3.3	3.2	4.0
	地域での社会教育推進	学区社会教育委員会運営補助	2.8	3.5	3.8
	地域での社会教育推進	社会教育事業指導助言	4.0	3.0	4.0
	地域での社会教育推進	社会教育審議会運営	4.0	2.7	4.0
	文化財の保存管理	文化財保存事業費補助	2.5	4.0	4.0
	文化財の整備活用	文化財情報普及啓発	2.8	3.0	4.0
	文化財の保存管理	旧本多忠次邸管理運営	2.8	3.0	4.0
	文化財の整備活用	旧本宿村役場復原活用	2.8	3.5	4.0
	青少年の健全育成推進	子ども若者育成支援	2.5	3.3	3.4
	文化財の保存管理	旧本宿村役場管理運営	2.8	3.5	4.0
視聴覚ライブラリー	家庭・地域・学校の連携推進	視聴覚ライブラリー運営	2.2	2.8	3.0
	家庭・地域・学校の連携推進	視聴覚ライブラリー備品整備	4.0	2.2	3.6
	家庭・地域・学校の連携推進	視聴覚事業啓発	2.7	2.5	3.2
	家庭・地域・学校の連携推進	親子映画会開催	2.8	2.0	3.6
	家庭・地域・学校の連携推進	映像制作啓発	2.7	2.0	3.4

(3) 評価結果の分布

(単位：業務活動)

評価点 評価視点	1～1.9点	2～2.9点	3～4点
改善余地	0	34	17
有効性・効率性	0	23	28
リスク管理	0	8	43

分布をみても、教育委員会事務局の業務活動全般として、適切な改善がなされ有効性・効率性も確保され、リスク管理も着実に行われているものと考えます。

4 外部評価結果

今年度は、次のとおり5件の業務活動に対し、11月27日に担当課面談を実施し土屋武志氏に御意見や御助言をいただきました。

1	業務活動名	子ども若者育成支援業務	社会教育課
外部評価			
この業務は、令和3年4月に設置された「若者サポートセンター」を、現在の多様な時代の要請にきめ細かく適応し、さらなる機動力を充実させるため、令和4年10月から「子ども・若者総合相談支援センター」（わかサポ）として体制を拡充していることに高く評価する。ニートやヤングケアラーなど学業及び生活に困難さを抱える若者に適切な支援を行うためには、行政として不可欠な業務である。 現時点においては、わかサポの設置により、人的な体制や支援メニューが整備され、若者を取り巻く社会課題に対し隙間なく支援ができるようになったのではと考える。 しかし、一方で、今後、自動車をはじめとした、この地方特有の産業振興により、外国人労働者及び学齢期の子どもを含む家族が益々増えることが予想される。つまり、生活に困難さを抱える若者の増加傾向に対し、現在の人材で対応しきれるのか懸念されるところである。 人材を増員するには、予算的な問題も影響されるが、後追いで要求するのではなく、長期的なビジョンで計画的に取り組む必要がある。 また、課題の多様化に対応するにも、市役所内外（福祉・医療部門、地域、ハロ			

ーワーク、警察等)の多くの部署と連携する、つまり、関わってくれる人を増やすことも、とても有効なことであると考える。 受託業者は受託されたことしかできない。受託以外の支援は職員で行うことになる。わかサポは今後の若者支援において重要な役割を担うことになる。だからこそ、連携を含めた、全庁的な体制構築に留意する必要があると考える。			
2	業務活動名	国際理解教育・英語教育振興業務	学校指導課
外部評価			
岡崎市は国際理解教育・英語教育振興に対し、従来から力を入れており、先進的に取り組んでいるものと評価する。このため、今後においても現状の質を落とさずに取り組んでほしいと考える。 今後、さらなる岡崎の英語教育の発展のために、2点の提言をしたい。 1点目は、先生にネイティブな外国語に触れる機会を増やしてほしいと考える。つまり、やる気のある複数の先生に対し、さらにモチベーションを高めてもらうため、市が研修費の一部を補助し、海外でネイティブの人たちの交流機会を持ってみてはどうかと考える。このような先生が増えることで、岡崎市の英語学習がさらに充実するものと期待したいと考える。 2点目は、国際理解教育の一環として、他教科においても英語を活用した授業に取り組んでみてはと考える。例えば、社会科においてアメリカを学ぶときに英語科と連携する。また、理科の実験の際、器具の名前など英語も使ってみてはどうだろうか。岡崎の英語教育がさらに展開していくためにも、次の振興のあり方を検討してもらいたい。興味を持って取り組むチャンスを増やすと、英語が苦手でも英語を好きになってくれる子が増えるのではと期待しています。			
3	業務活動名	特色ある学校づくり推進業務	学校指導課
外部評価			
「特色ある学校づくり」というのは、学校単位で特色を出す取組ということで、例えば、中山間地域においては、多様な子どもたちとの交流を重視した取組、また、学区内に自然科学研究機構がある学校は、研究所と結んで学校独自のオンライン授業を行ったりすることと理解しました。 資料においては、「未来型教育推進業務」について説明いただきましたが、例示をより多く示し、具体的にどのような特色があるのかを各学校整理することが対外			

的にアピールするにも有効であると考えます。 各学校への需用費の配当も、小規模校が少額にならないよう、（児童生徒数ではなく）クラス数に比例して配当していることは適正であると考えます。しかし、その用途については、（授業で使う備品ではなく）あくまで児童生徒の教材の購入に使用すべきであると考えます。 「どうする家康」で全国的に注目されている今、関連した史跡や地域にある学校は、地域と連携した特色を検討することを期待したい。			
4	業務活動名	ジュニア版家康公検定実施業務	教育政策課 学校指導課
外部評価			
この業務は、子どもたちの郷土に対する愛着を深めることができることと、検定といったイベント手法は、市の一つの目玉事業として注目されるものであり、大河ドラマで家康が全国的に脚光を浴びる中、時宜にかなう良いものであると考えます。 また、経費には企業版ふるさと納税を活用することで、市側としては、業務経費に市費負担分がなく、企業側としてはふるさとの子どもたちへの貢献につながるものと双方にとって有益な業務であり、今後もぜひ継続を期待したいものと考えます。 今後も継続実施するための展開が課題とのことでありますが、検定及びその学習が、単なる知識量比べで終わることなく、体系化された社会学習につながるよう質の向上を図る必要があると考えます。また、検定を充実させるためにもステークホルダーを増やすことも重要かと考えます。 家康及び家康が生きた時代について、社会背景、金融政策、商業事情、福祉・医療、外交、ものづくり、科学、文化等、知の体系を整えたうえ、あらゆる側面から現在の政治社会とどうタイアップしているかを考える発展学習につながるものと期待できます。また、各側面のエピソードにおいてはそれぞれの関連企業・機関が参画し、家康をレクチャーしてもらうことは、子どもたちと企業等とのつながりもでき、さらに有意義なものとなると思います。			
5	業務活動名	羽根小学校校舎整備業務	施設課
外部評価			

当該整備工事で、普通教室2教室を増設することのことで、プレハブ造ではあるものの、空調や防音は、従来の校舎と同様な仕様となっているとのことで、従来の仮教室としての活用ではなく、長期的に使用する想定であると聞きました。

また、黒板に替わりホワイトボードを設置したり、大型化したりと、現在の活用や仕様に十分配慮したものと認識しました。今後においても、先生や子どもたちの使用のしやすさに十分配慮し、整備を進めてほしいと考えます。

当該校舎にはトイレが設置されず、隣接校舎のトイレを利用することとなっているが、いつ何時も自由にトイレが使用できるよう同一校舎に設置されることが望ましいと考えます。

整備経費は、（別枠の）未来投資予算を活用しているとのことで、校舎の整備は児童生徒の利用だけということではなく、地域利用も念頭に置き、今後においても積極的に当該予算を活用していくことが望ましいと考えます。